

作成 2019年5月7日 (第1版)
更新

VBの安全性

VBの安全性は、業界の標準的な検査機関の一つである一般社団法人日本食品分析センターによって証明されています。急性経口毒性や皮膚への刺激性等も認められていませんので、肌の弱いお年寄りやお子様にも安心してお使いいただけます。

急性経口毒性試験

試験方法 VB検体2000 mg/kgを投与する試験群と注射用水を投与する対照群を設定し、各群にラット雌雄それぞれ5匹を用いた。投与前に約4時間絶食させた。体重を測定した後、試験群には試験液、対照群には注射用水をそれぞれ20 mL/kgの投与容量で胃ゾンデを用いて強制単回経口投与した。

結論 観察期間中 (14日間) に異常、体重変化、剖検初見及び死亡例は認められなかった。従ってマウスを用いる単回経口投与において、検体のLD50値は、雌雄ともに2000 mg/kgを超えるものと評価された。

実施機関 一般社団法人日本食品分析センター

皮膚一次刺激性試験

試験方法 4箇所を剪毛し、うち2箇所にしり傷をつけた雄ウサギ3匹を用意し、無傷および有傷のそれぞれ1箇所にVB検体を塗布したガーゼパッチを接触させた。24時間後パッチを除去し、経過観察による刺激反応採点を行った。またISO 10093-10 Part10に従い刺激性評価を行った。

結論 その結果、除去後1時間に1例で非常に軽度な紅斑が見られたが、24時間に消失した。ISO 10993-10:2010 Part 10に従って求めた一次刺激性インデックス(P.I.I.)は0となった。以上のことから、ウサギを用いる皮膚一次刺激性試験において、検体は「無刺激性」の範疇に入るものと評価された。

実施機関 一般社団法人日本食品分析センター

眼刺激性試験

試験方法 雄ウサギ3匹を用意し、片眼結膜嚢内に検体を0.1 mL点眼した。経過観察による角膜、虹彩、結膜の観察を行い、またDraize法の基準に従って眼刺激性の採点をした。

結論 点眼後1時間に全例で眼瞼結膜の発赤、加えて2例で眼球結膜の発赤が見られたが、24時間に消失した。Draize法に従って求めた観察期間中の平均合計評点の最高値は2.0(点眼後1時間)となった。以上のことから、ウサギを用いる眼刺激性試験において、検体は「無刺激物」の範疇にあるものと評価された。

実施機関 一般社団法人日本食品分析センター

VB
LB
VIRUS
BLOCK